

岩崎城だより

No.65
2024/7/1

館長のおはなし



岩崎城歴史記念館では8月10日より市制30周年特別展「につしんの発展と文化財」と題し、日進市の文化財について紹介します。

さて、そもそも文化財とはなんでしょう？文化財とは「我が国の長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産」（文化庁ホームページより）とあります。具体的には「有形文化財」、「無形文化財」、「民俗文化財」、「記念物」、「文化的景観」、「伝統的建造物群」の6種に分類されます。

日進市では市指定文化財として香久山古窯や米野木お馬頭など13件、国登録有形文化財として旧市川家住宅1件が指定、登録されています。いずれも日進市の歴史を語る上で欠かすことの出来ない大切な文化財ですが、指定・登録されていなければ大切ではないというわけではありません。古くからあるものを意識的に残し保存していく。これから先、日進市が50年、100年と続いていく中で文化財は、日進市が日進市であることのアイデンティティの1つになります。ぜひ身の回りにある古きもの大切にしてください。



「涼」
いそはたみか

イベント情報

「日進市菊花大会 菊づくり講習会」



- ②7月6日(土)10:00～
- ③8月3日(土)10:00～
- ④9月7日(土)10:00～
- ⑤10月5日(土)10:00～

初心者の方でも大会実行委員が丁寧にお教えします。第2回、第3回と菊の植え替えを行い、立派な大菊を育て上げるお手伝いをします。(全日受講できなくてもかまいません。)



「岩崎城刀劇隊 三二剣術道場」

7月7日(日)
9月8日(日)
11:00～/14:00～
参加無料・定員なし
雨天中止



岩崎城刀劇隊による剣術体験です。簡単な刀の扱い方、剣舞やポーズなどを練習します！「岩崎城侍大将への道」カードも配布しています。参加回数で位が上がるスタンプカードです！



「にわさきくん」

【日時】7月28日(日)
【時間】
・11:00～11:15
・14:00～14:15



にわさきくんがお出迎えします。出陣日にはキャラ印も頒布しています。ぜひにわさきくんに会いに来てください！一緒に写真撮影もしていただけます。



「岩崎城 みんなのぬり絵展」 【展示期間】

8月12日(月・祝)まで



みなさんにぬっていただいたぬり絵をお城に展示しています！岩崎城マスコットキャラクターや、岩崎城刀劇隊、丹羽家の家紋などのぬり絵がありますよ！



「岩崎城だより」

発行日 2024年7月1日(年4回発行)

編集・発行 岩崎城歴史記念館

〒470-0131

日進市岩崎町市場 67 番地

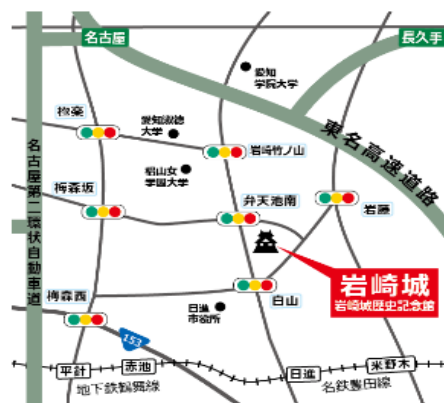
Tel 0561-73-8825

Fax 0561-74-0046

<http://www.mf.ccnw.ne.jp/iwasakijo>

◆開館時間
9:00～17:00

◆休館日
月曜日
(祝日の場合は開館)
12月28日～1月4日



夏の岩崎城

特別展

「につしんの発展と文化財」

■展示期間

8月10日(土)～10月6日(日)

■入館無料



第2回岩崎城歴史講座

「岩崎城攻めの先鋒を務めた伊木忠次とその一族」

岩崎城の戦いにおいて、先鋒部隊として大手口から岩崎城を攻めたのは、池田家家老・伊木忠次でした。恒興・輝政に仕え池田家の中心人物として活躍した伊木忠次、その嫡男であり築城を得意とした伊木忠繁について、伊木家の出身地である各務原市より、学芸員の長谷氏をお招きして解説いただきます。

7月15日(月・祝)13:30～15:00 【募集】7月2日(火)9:00～

【参加費】無料 【定員】30名 【申込】当館までお電話ください。

【講師】長谷健生(各務原市歴史民俗資料館学芸員)

子ども向け歴史教室

「長久手合戦図屏風を見よう！」

長久手合戦図屏風を子ども向けに分かりやすく解説します。

7月28日(日)11:00～12:00

【募集】6月29日(土)9:00～電話申込

講師:内貴健太(当館学芸員)

【対象】中学生以下(親子参加可、同伴1名まで)

【参加費】100円(資料印刷代)

城主気分で

花火鑑賞

展望塔岩崎城の最上階からにつしん夢まつりの夢花火を貸し切り観覧！

9月15日(日)18:00～20:00

【募集】8月15日(木)～9月1日(日)
往復はがきに住所、氏名、連絡先、参加人数、必要駐車場数を記入しご応募ください。

【参加費】9000円(1グループ)当日支払い。

岩崎城にまつわる民話

◆きゆうてんときゅうね◆

昔のこと、大応寺に、「きゆうてん」という小僧がいた。きゆうてんは頭のよい小僧だった。狐が寺へきてはいたずらをするので、きゆうてんは狐をこらしめてやろうと思った。わなには狐の好物のねずみをつけてしかけておいて、夜がふけるのを待った。

するとやがて、声がする。きゆうてんが耳をすまして聞くと、「**きゆうてんがかかった、きゆうてんがかかった**」という声がした。きゆうてんが起きて、そと外をみると、雨戸に風が当たって、きゆうきゆう、がたがたと音を立てているばかりだった。「なんだ風だったのか」と思つて、床に入つた。そして、ひとねむりしたかと思うと、また「**きゆうてんがかかった、きゆうてんがかかった**」という声を聞いて起きてみると、やはり風の音が、きゆうきゆう、がたがたと音を立てるばかりであつた。頭の良いはずのきゆうてんが狐にやられたという話である。

大応寺 日進市岩崎町神明143番地

創建年代は不明。赤池に「大応寺」という小字があるため、以前、赤池にあつたと考えられているが、江戸時代の諸書にその記述はない。境内には天保5年に寄進されたものと伝わる、子安観音堂や、岩崎御嶽山の開山明寛行者を祀る行者堂などがある。

収蔵品紹介

本郷村絵図

この絵図には本郷村が描かれています。黄色は「田地」、赤は「道」、青は「池川」…と色分けされて描かれ、よく見ると小字や村境、寺社かかれており、その土地がどんな様子であつたのかが分かります。

尾張藩は江戸時代後期、藩内の村々に村の絵図を提出するよう求めました。その理由は、行政上必要であつたため、地誌である『尾張志』編纂に關係して必要であつたため、といわれています。そして、この絵図は孤松齋樵玉によつて描かれたものです。藤島町にも同筆の村絵図が残っています。孤松齋樵玉は江戸時代の文化文政期に

長久手で活躍した絵師で、長久手の安昌寺には、岩作八景のもとになつた「岩作八景図屏風」が残されています。孤松齋樵玉の兄（または父）である浅井惣助は岩作村の庄屋を務めており「庄屋 浅井惣助」と書かれた岩作村の絵図（嘉永期）も残っています。兄である浅井惣助も絵師として月雪齋樵山と号しており、兄弟は他にも寺へ寄進する仏画など、多くの作品を手がけました。

この「本郷村絵図」は、夏の特別展で展示予定です。

